

官吏同士の虚禮は 絶対に廃止せよ

年末年始の贈答季節を前に 政務總監から通牒

官吏同士の虚禮は、絶対に廃止せよ。これは、政務總監の通牒である。年末年始の贈答季節を前に、官吏同士の虚禮を廃止することを求めた。官吏同士の虚禮は、国家の威信を損なう。官吏同士の虚禮は、国家の威信を損なう。官吏同士の虚禮は、国家の威信を損なう。

賞與で戦時公債

鐵道局銃後の申合せ

賞與で戦時公債。鐵道局銃後の申合せ。賞與で戦時公債。鐵道局銃後の申合せ。賞與で戦時公債。鐵道局銃後の申合せ。

慰問會品から見た 半島銃後の赤誠

先月だけで七萬六千三百個

慰問會品から見た半島銃後の赤誠。先月だけで七萬六千三百個。慰問會品から見た半島銃後の赤誠。先月だけで七萬六千三百個。慰問會品から見た半島銃後の赤誠。先月だけで七萬六千三百個。



滑れるぞ！
けふ清涼里にて

北米宣慰民が 出征家族慰安

北米宣慰民が出征家族慰安。北米宣慰民が出征家族慰安。北米宣慰民が出征家族慰安。

北支文化建設に 視察團派遣

北支文化建設に視察團派遣。北支文化建設に視察團派遣。北支文化建設に視察團派遣。

歐米の親友に告ぐ

歐米の親友に告ぐ。歐米の親友に告ぐ。歐米の親友に告ぐ。

全世界に呼びかけ

全世界に呼びかけ。全世界に呼びかけ。全世界に呼びかけ。

時局色の 大賣出し

時局色の大賣出し。時局色の大賣出し。時局色の大賣出し。

山西滞在十日間

山西滞在十日間。山西滞在十日間。山西滞在十日間。

郵便局恐怖時代

郵便局恐怖時代。郵便局恐怖時代。郵便局恐怖時代。

東寶系映画を 朝鮮からKO

東寶系映画を朝鮮からKO。東寶系映画を朝鮮からKO。東寶系映画を朝鮮からKO。

あす白衣の勇士 四十七名京城へ

あす白衣の勇士四十七名京城へ。あす白衣の勇士四十七名京城へ。あす白衣の勇士四十七名京城へ。

寒波！ 各列車遅延

寒波！各列車遅延。寒波！各列車遅延。寒波！各列車遅延。

池田の甘栗

池田の甘栗。池田の甘栗。池田の甘栗。

大日本橋次郎

大日本橋次郎。大日本橋次郎。大日本橋次郎。

戦利品展覧会

戦利品展覧会。戦利品展覧会。戦利品展覧会。

三重丸遭難

三重丸遭難。三重丸遭難。三重丸遭難。

園生が自殺

園生が自殺。園生が自殺。園生が自殺。

松の蜜キメラ

松の蜜キメラ。松の蜜キメラ。松の蜜キメラ。

左黨廻れ

左黨廻れ。左黨廻れ。左黨廻れ。

池田の甘栗

池田の甘栗。池田の甘栗。池田の甘栗。

新龍山三才地(八院)隨意

新龍山三才地(八院)隨意。新龍山三才地(八院)隨意。新龍山三才地(八院)隨意。

西原産婦人科

西原産婦人科。西原産婦人科。西原産婦人科。

印刷タオ

印刷タオ。印刷タオ。印刷タオ。

株

株。株。株。

株

株。株。株。

株

株。株。株。

印刷タオ

印刷タオ。印刷タオ。印刷タオ。

株

株。株。株。

株

株。株。株。

株

株。株。株。

株

株。株。株。

株

株。株。株。

印刷タオ

印刷タオ。印刷タオ。印刷タオ。

株

株。株。株。

株

株。株。株。

株

株。株。株。

株

株。株。株。

株

株。株。株。

[illegible]

祝京城日報仁川支局開設三週年



朝鮮第八區機船底
電網漁業水產組合

仁川
朝鮮總督府
國富信一

仁川
渡會精米所
渡會儀市

仁川
仲立組合
木下德三
田岡留吉
木村爲一郎

仁川
朝鮮燐寸株式會社
電話一五一番

仁川
松永源次郎商店
電話一〇四八番

株式會社林兼商店
仁川事業場

仁川
崎山信

仁川
增田屋商店釀造部
電話長二五九

仁川木材商組合

仁川
清水商會
電話六二

仁川
京仁トラツク
株式會社
仁川營業所

仁川
關工務所
電話長二五〇

仁川
仁川實屋組合

仁川
岩永源次郎商店
電話一〇二二

仁川
安河內商店
電話二五二

仁川
院加々見鐵太郎

仁川
佐藤南醫院
電話六三

仁川
小谷益次郎

仁川
高杉醬油場
電話七五番

仁川
木村組
電話二番

仁川
朝鮮中央無盡株式會社
仁川支店
電話長七六八

仁川
朝鮮證券金融株式會社
仁川支店
支配人 澁谷 鐸

仁川
森信運輸會社
電話五五番

仁川
上田文次郎

仁川
對馬光田新太郎
電話二六三

仁川
仁川葬儀社
電話一九番

仁川
上野進一郎

仁川
河村宗七商店
電話一〇三

仁川
仁川海運俱樂部
日鮮海運株式會社
朝鮮運送仁川支店
朝鮮郵船仁川出張所
高杉回漕部
大田和組
慶田組
朝鮮海運商會
協同海運商會

仁川
梶谷寫真場
梶谷靜風

仁川
朝鮮鹽業株式會社
崎村米造

仁川
伴康衛

仁川
虎屋商事株式會社
電話八二

仁川
久米商會
電話長一三三番

仁川
野口商會
電話二七・三〇番

仁川
仁川勤業所
電話二五

仁川
仁川角丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
共益社仁川支店
梅田常博

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
二宮鐵工所
電話長七三四

仁川
吉岡久

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
深見釀造場
場主 深見寅市

仁川
能治齒科醫院
電話三五〇番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川
仁川丸丸精米所
電話六〇八番

仁川丸丸精米所	仁川丸丸精米所	仁川丸丸精米所	仁川丸丸精米所	仁川丸丸精米所	仁川丸丸精米所	仁川丸丸精米所	仁川丸丸精米所	仁川丸丸精米所	仁川丸丸精米所
電話六〇八番	電話六〇八番	電話六〇八番	電話六〇八番	電話六〇八番	電話六〇八番	電話六〇八番	電話六〇八番	電話六〇八番	電話六〇八番

優しい日本娘と婚約

[illegible]

加納部隊長ら
無言の凱旋

豫審以來三年八月月日

布哇から献金

[illegible]

てゐるが、恰りど違ひを尋ねれば、その時代には電氣はあつた筈だ。遠く村に發電所を建ててゐた。暗黒の境となつてゐる。戦争が常になつたのだ。不便なものだ。不変としての原産時代にはあつたはずだ。

京仁トラツクの営業係社員

林兼重油船
行方不明

頭部内出血甚し

京城に住む大地主の組
邪戀の生汗

午後一時十五分、京橋川沿の鐵道方、ト下鐵道沿路に投殺を遂げた盛装の朝鮮婦人が、先づ價ふ、來世で貴男の來るのを待つて居ることを誓ひ、レ

一、二、百萬圓の種明

豪華建築

半島の丸ビル

東京
城京支店
一の角
に、半島
の丸のビ
ルを朝日
ビルヂヤ
イングが
建設を現
はすこと
なり日本
電報通信
五百五十七
番と云ふ地
上八階、地下
三層、高さ三
十六メートル、六
千七百平方尺、
七、八階は半島ホテル、五
（事務室）、電話設備が完了した
に事至り、電報設備がまた三
十ノット二千二百五十赫、電
力増力、修繕の時計修理機、イ
ンダストリアル・マシナリー等
あり。

○新設設備も五月七日竣
百八十坪程度の便所三十丁
の風呂場、スチムボイルの時は
の引込火炎と非常警報音が
きこえるものになつてゐる。

落成した「朝

總額なんと一

脚を興へ受刑者達は事切以來
 事變に罪を犯した人達に禁言
 を起した。全監二千人飛奔所
 時間の延長を頼つて國船航
 港の打合せを行つた後、赤黒の
 發破研究所を見學、更に午後四時
 から府民館に於て全船火藥而爲事

○廿日夜十時ころ京城御生町永一京藏自動車

火災

東京

火

1970-1971

て飛込自殺
に住む大地主の細君
邪戀の生活を注

「持つてゐる」といふ意味の害匿があつた

外一名は、四日後午後七時ごろ
其の賄賂に五千金萬基方に至り
二十圓あれば即座に五千圓贈
るからと、言葉巧みに詐欺賄賂
を繰り返してゐることを簡路員
が捕へて嚴重取調へ中

☆すこと
五君の兄
「これを佛
ちまつた、

海君の死を
い小娘の

欺いて持出す

旅籠売しの男

日本女子大學生平道を車頭を抱へて過馬の半島青年を、驛國中の太閤の遺蹟、戦跡を呼びひとと問ふ、住所も分りぬ、ひととて柱には背負三ッ、飾ひてさへ、癖には、追及の精果、落馬池、轡轡に於てある馬車、遠藤山、丸山、荒丘、氏に「私の家何処」と、と問ひに、もたぬ物を、とて、馬車に、ひき入、入、

し合つて花に酔つた友であつた

☆……特別設けられ、先づは、い、何で、が十二、ひもつ、機織り、☆……この機織りの裏側に、彩を放つた、☆……「愛する、に、左右、

手輕に治したい方に無代

[illegible]

引又賞局
席を求め
病氣で從來大手佛を應ずより外
方法がなかつたが、ドクトル
療書を書いた。原本中では

日本女子大學校

感重受付自一月十日
 二月廿八日
 〆規則書を受領

ドアを
に叩き付
近の病院
を放浪す。

ガン

宝 登

お子様のために

集

日本樂器
京城本廠
電話本局(2)
(店址)特約店

三 府下町寄上町

へして下
置いて立
さんほ
いったの
ちほ、義

扇印

リンゴ

歩貫
町万

めたもの
積額

た體でも
なしたた
はす思
御の指導
い、貴館式
大いに興
だ

市外農務

品質優秀
信用本位

面產
培栽
年

[illegible]

[illegible]